

# 「Society 5.0 に向けたオンライン学習および AI・数理・データサイエンスと人材育成支援に関わる教育システム」特集号の発刊にあたって

後藤田 中

(香川大学創造工学部, 学会誌編集委員会筆頭幹事)

## 1. はじめに

本特集号では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語などによる格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かく対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会的課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会「Society 5.0」をテーマとした。このテーマの下、「Society 5.0 に向けたオンライン学習に関する教育システム」に加え、Society 5.0 に求められるリテラシーを備えた人材、AI、数理・データサイエンスを理解し、各専門分野で応用できる人材の育成に対して「Society 5.0 に向けた人材育成に関する教育システム」の論文を幅広く募集した。

Society 5.0 は、2015 年 9 月に国連で採択された SDGs (前回の特集号テーマ) とともに密接に関連している。SDGs では、地球上に山積するさまざまな課題の解決が国際目標として掲げられ、17 の目標と 169 のターゲットから構成されている。日本政府および経団連がこの SDGs を実践するうえで戦略の柱としているのが Society 5.0 である。Society 5.0 が目指す社会では、世界規模でさまざまな課題を解消する必要があり、国連が掲げる SDGs の達成に通じる考え方とも捉えられている。SDGs の一つに挙げられている「包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことは Society 5.0 で述べられる格差なくモノやサービスを質の高い形で教育を提供することであり、教育システム情報学領域における知見が共有されることによって、Society 5.0 すなわち、国際的

基準としては SDGs にも貢献できる教育システムの更なる発展として期待できるものである。

## 2. 論文の投稿数と判定結果

論文投稿締切は 2021 年 6 月 1 日から 16 日への約 2 週間の延長を経て、23 編 (一般論文 10 編, 実践論文 7 編, ショートノート 2 編, 実践速報 4 編) の投稿を受け付けた。査読においては、採録可否の判定とともに、特集号と整合する内容であるかについても厳正に審査を行った。その結果、すべて特集号での採録となった (一般号へ変更のうえ、採録となった論文はなかった)。最終的な特集号の採録は 10 編 (内訳: 一般論文 3 編, 実践論文 3 編, ショートノート 4 編, 実践速報 0 編) となった。投稿数は、ここ数年と比較し、約 2 倍近い大幅増となった。これは、後述する特集論文研究会での発表件数の増加とあわせて、本特集号のテーマとして設定されたオンライン学習の取り組みに関する研究や人材育成に関する教育研究成果の公開の場として、本特集号に目が向けられた可能性がある。なお、採択率は 43% (採録 10 件/投稿数 23 件) であり、前回特集号の採択率 36% に比べ、やや上昇した。

特集号の判定に至っては、一回目判定において、一般号と同様に、あくまで論文として採録に値するかを判断した。特集テーマとの適合性が十分でないと判断されたうえで、条件付き採録の場合は、「特集号として採録されるためには、以下の条件を満足してください」など参考意見相当のコメントとして付記した。一回目判定において、改稿投稿時に著者がその充足が困